

女性活躍を推進するための生理用品設備設置と コミュニケーションをデザインする教育事業

2022. 11. 18



LAQDA
PROJECT

Powered by わたしの暮らし研究所株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座 1-22-11 銀座大竹ビジデンス 2F

2F Ginza Otake Residence, 1-22-11 Ginza, Chuo-ku, Tokyo 104-0061

実施事項一覧



実施事項	サービス 購入者	ユーザ
1. ヘルスリテラシを上げ、当事者と 同僚、管理職のコミュニケーションを 活性化させる女性活躍推進セミナー	企業	・従業員（男女問わず） ・管理職 ・生理用品設備設置導入者
2. 生理用品をはじめとするトイレ の必要物品導入の設備設置コンサル ティング・調査・分析サービス	企業	・従業員（男女問わず） ・管理職 ・生理用品設備設置導入者
3. 生理用品導入企業 コミュニティ運営	企業	企業内生理用品設置担当者 (人事・総務および有志)
4. 青少年教育で活用できる教育ツ ール作成	教育機関	・小学生 ・中学生 ・高校生 ・大学生

実施内容と課題

▼企業内セミナーでの「コミュニケーションデザイン」の検証

生理用品の設置に男性の関与が必要なことは、過去の実証実験で検証済。男性社員と女性社員それぞれに、想定セミナー内容や実施内容について、クローズドな場での事前ヒアリングを行い、受容性を検証。

▼その結果、「課題」が浮き彫りに

想像以上に、一般社員においては、生理にまつわるコミュニケーションにハードルが高い。個人差はあるが、**女性からは生理に関する話を自分ごととして話づらく**、男性には**情報の「受け入れ」に課題がある**。また、現場が望んでも、ビル事業者・オーナーから生理用品の設置を断られるケースがある（トイレがビルの共有部であるため）。

▼セミナー・実証実験の「受け入れ」をコミュニティで考える

どう生理用品の設置を社会全体で考えていくかを最終ゴールとして、実証実験実施企業の担当者とともに、安心安全な場所を設け、対話を深めるコミュニティを作成。企業内への働きかけや社員ひとりひとりへの理解をどう楽しく無理なく行うか検討する。

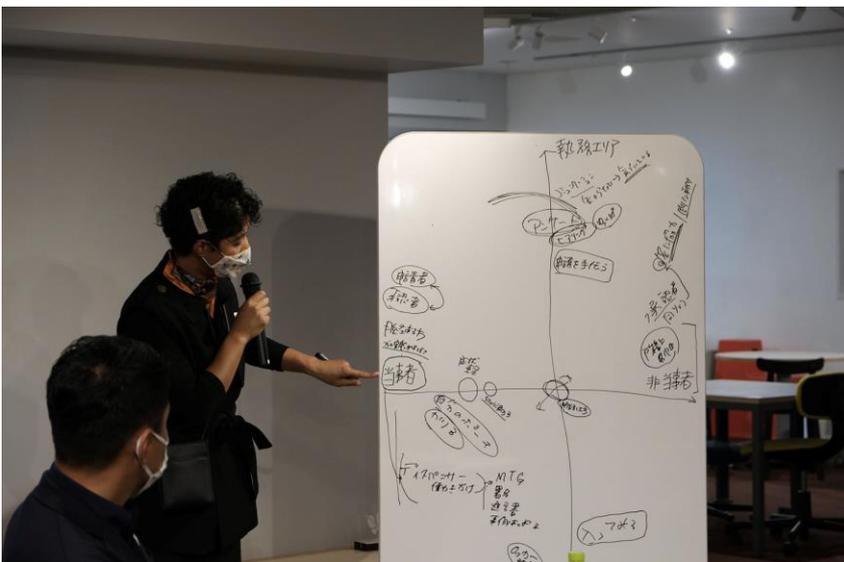
生理用品設置の承認ステップを乗り越えるコミュニティ

現在は、過去に実証実験を行なった企業を含め、18の企業・団体に横断したコミュニティを運営し、月1イベントでディスカッションを実施。レポートを追って公開していく。

- 「誰かの”困った”にどう寄り添うか」 vol.1 -

なぜ働く環境は、生理を考えた
設計になっていないんだろう？

* 実施風景 → 週明けにレポート公開予定です。



* 11/6 | サイエンスアゴラ オープンセミナー

2022年11月6日（日）は、サイエンスアゴラで登壇。生理用品をトイレに設置する実証実験を行なったコミュニティメンバーや協力企業である躯体製造メーカーと共に、生理用品設置への多様な関わり方をパネル対談交え、講演。



まぜて、こえて、
つくりだそう

サイエンスアゴラオンライン
10月20日(木)～22日(土)

サイエンスアゴラ実地開催
11月4日(金)～6日(日)

SCIENCE AGORA
2022

The graphic features a central glowing sphere made of interconnected white lines. Various stylized human figures are interacting with the sphere: some are sitting on it, some are standing around it, and one is pointing upwards. In the bottom right corner, a person in a wheelchair is talking to a white humanoid robot. The background is a solid yellow color with faint mathematical formulas and a graph visible in the lower-left area.

* 実施風景

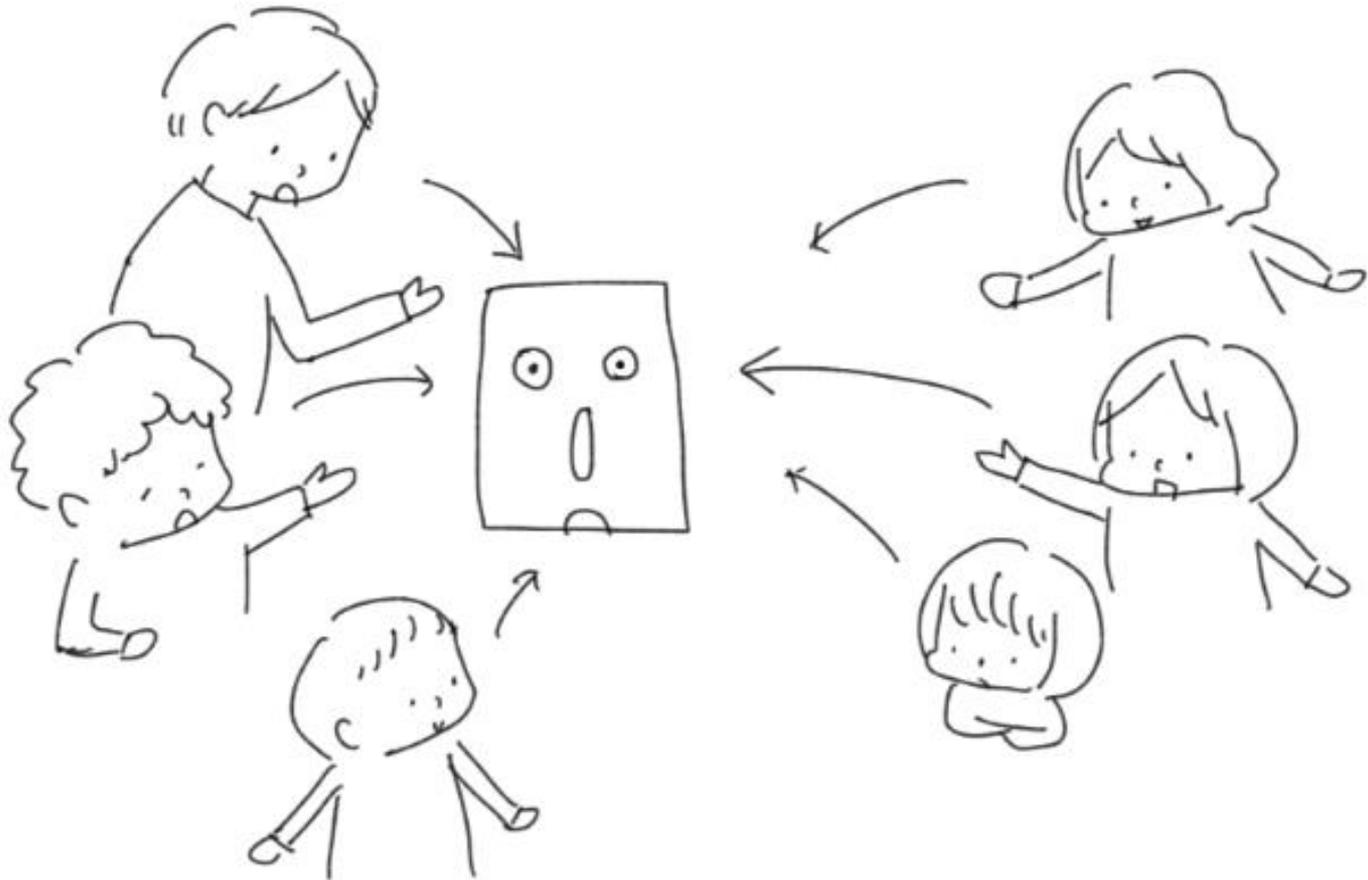


* 実施風景→今後、レポート公開予定です。



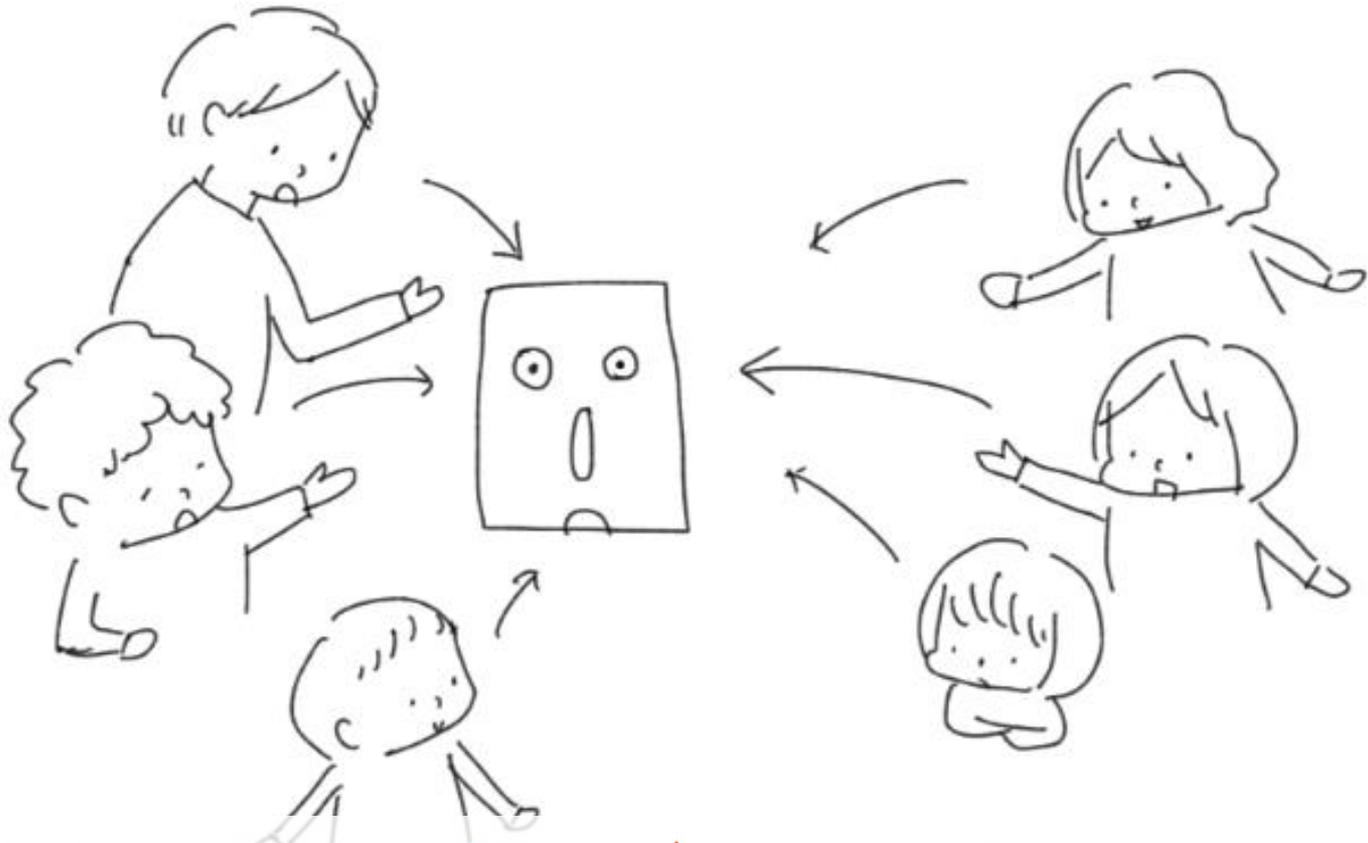
生理用品がトイレに必要な人がいる。どう合意形成をとるか

日本では、生理についての話題が長らくされてきていないため、生理にまつわる**情報やその受け入れ度に個人差が大きい**。女性からも男性からも語りにくい実情がある。



生理用品がトイレに必要な人がいる。どう合意形成をとるか

日本では、生理についての話題が長らくされてきていないため、生理にまつわる**情報やその受け入れ度に個人差が大きい**。女性からも男性からも語りにくい実情がある。



モノを介することで、「言いづらい」→「言いやすい」に

軽くて安価。使いやすいPOPなケースを大量に配布！

経済産業省の採択事業である「生理用品設置をきっかけにしたコミュニケーションデザイン事業」における実証実験・教育プログラムを共同で実施いただける企業を募集いたします。

わたしの暮らし研究所株式会社

🕒 2022年11月4日 16時51分



※リリースしたことで、更に実証実験先をお声かけ中

軽くて安価。使いやすいPOPなケースを大量に配布！

経済産業省の採択事業である「生理用品設置をきっかけにしたコミュニケーションデザイン事業」における実証実験・教育プログラムを共同で実施いただける企業を募集いたします。

わたしの暮らし研究所株式会社

🕒 2022年11月4日 16時51分



塩ビでできているので、水濡れOK
アルコール除菌もOK。折り畳み可能。
平置き・壁掛けできて、1枚ずつ取り出せます！

* トイレに設置、実証実験予定。



(撮影協力：株式会社スペースマーケット)

* 設置企業でメディアを呼んだ体感イベントも！



(撮影協力：株式会社スペースマーケット)

* コミュニケーションキットセットをより届け、機会提供

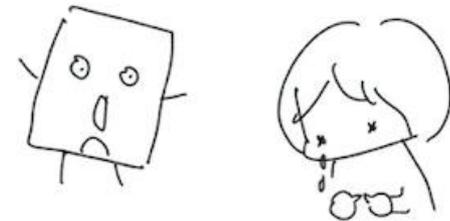
生理用品の設置をきっかけに、どう企業・学校・組織内で考えてもらうか――。

セミナーのほか、生理用品設置に興味を持った人の理解を醸成するために実証実験結果をまとめたセットとして配布し、ゆっくり読んでもらうことで個人の理解スピードに合わせたサポートも必要と思われる。



ケースイメージ

どうして
生理用品がトイレに
必要なんだろう？



わたしの暮らし研究所

資料イメージ

* 11/20 | TEDxKioichoで登壇



TEDx Kioicho

x = independently organized TED event

沢田 直美

Naomi Sawada

社会起業家、発明家、
わたしの暮らし研究所株式会社 代表取締役
Social Entrepreneur, Inventor,
President of Research Institution of My Life

生理用品から見えてきた、 言いづらい悩みを 共に考える仕掛けづくり

ハッカソンでの優勝をきっかけに、先進技術活用による豊かな社会を目指す。しかしテクノロジーでは解決出来ない問題が往々にあることに気づく。例えば生理用品の収納管理箱。海外では100年前から無料でトイレに設置されているのに日本には今も殆どない。なぜ日本では出来ないのか、女性達は声を上げないのか。問題の本質は物ではなく、人と人のコミュニケーションのあり方だと気付く。どのようにこの問題を乗り越えようとしているのか、そのアイデアを語る。

Theme of 2022 Art

* 11/23 | 人工知能学会（第10回市民共創知研究会）で研究発表

第10回市民共創知研究会

人工知能学会 合同研究会2022に参加する形で、第10回研究会を2022年11月23日(水・祝)に慶應義塾大学矢上キャンパスにてハイブリッド開催致します。市民の共創・協働により創発される集合知や、そのような共創的プロセスの支援技術、AIやデータ活用による社会課題解決（シビックテック）、研究者・技術者と市民の協働（シチズンサイエンス）、地方創生、合意形成、社会シミュレーション、その他共創的な活動報告等の発表を募集します。

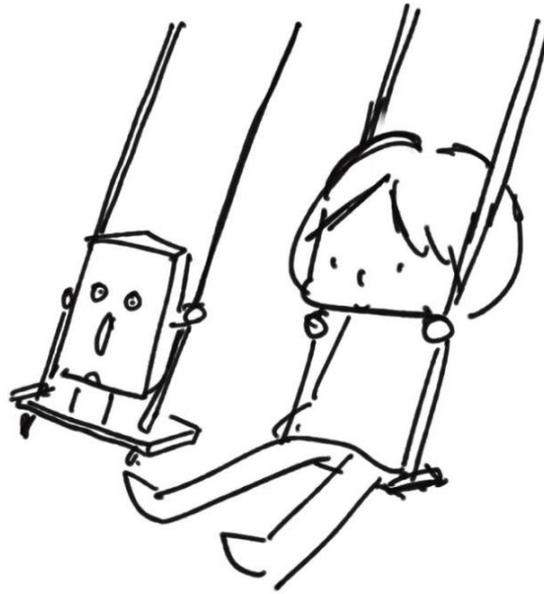
11:10-11:35 企業を巻き込み、IoTケースで生理用品設置を実施した結果 ～“みんな”の力の借り方の検討～

○沢田直美, 佐々木成代 (わたしの暮らし研究所株式会社)

- 11:10-11:22 発表
- 11:22-11:34 対話

2021-2022年に実施したスマホ制御のIoTケースでの生理用品設置を利用した実証実験での研究について発表。会場の方々と対話予定。

みんなで「新しい当たり前」をつくっていきましょう！
ご静聴ありがとうございました。



わたしの暮らし研究所

info@wk-k.com